

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

Rotary International District 2740

vol. **2**
2021.8



ガバナー 月信

2021-2022年度 国際ロータリー第2740地区

ガバナー 塚崎 寛



2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

CONTENTS

国際ロータリーのテーマ	1
ガバナーメッセージ	2
地区委員長挨拶	4
ロータリーコーディネーター NEWS	13
子どもたちのわが町 長崎・編集後記	裏表紙

Governor's message



お知らせ

2021-2022年度 第2740地区ガバナー 塚崎 寛



1. 年間月間一覧

8月：会員増強・新クラブ結成推進月間	1月：職業奉仕月間
9月：基本的教育と識字率向上月間・ ロータリーの友月間	2月：平和構築と紛争予防月間
10月：米山月間・地域社会の経済発展月間	3月：水と衛生月間
11月：ロータリー財団月間	4月：母子の健康月間
12月：疾病予防と治療月間	5月：青少年奉仕月間
	6月：ロータリー親睦活動月間

となっております。

各委員会の皆さん、それぞれに活動を宜しくお願ひします。

2. 7月3日の静岡県熱海市で発生した大土石流災害への支援として7月7日に行われました第1回ガバナー諮問委員会において、全員一致で義援金を送る事を決定し、当地区より150万円を7月8日に送付致しました。

3. 8月は会員増強・新クラブ結成推進月間です。

当2740地区は2021年12月末時点での会員数は2,153名でしたが2021年6月末で2,100名を切ってしまいました。その主な原因として考えられるのが、コロナ禍における地方経済の落ち込みによるロータリーどころではないといった大きな負の流れが発生（全国的に会員数が激減）

又、休会を余儀なくされ、親睦すらとれない状況が長く続いた事、等々が挙げられます。リアルでの例会が難しい状況では、無理をせず、ハイブリッド例会、バーチャル例会を積極的に取り入れましょう。

そんな折り、緒方信行ガバナーノミニーより、衛星クラブ設立のための準備を進めています、との心強いお言葉も頂いております。

当地区での地区活性化の具体的活動指針の1つに衛星クラブ設立へのチャレンジがあります。

又、若い会員、女性会員の入会促進等として、例会費の見直し、出席、メーカーの見直し等、様々な工夫を取り入れる事も大事です。

クラブの戦略計画の1つのテーマとして、会員増強・退会防止等を討議する8月にしましょう!!

Governor's message

4. 国際大会が2022年6月4日～8日 アメリカテキサス州ヒューストンで開催されます。
登録方法・キャンセル方法・その他情報については、ガバナー事務所へ問い合わせして下さい。
レジュメをクラブへお送り致します。

5. ロータリー奉仕デー

当2740地区では『環境問題への取り組み』がロータリーの重点項目の第7番目になった事で、海洋・河川の環境美化プロジェクトに参加する事になりました。

日本全国34地区の内、現在半数以上の地区の協同参加です。

当地区でも、社会奉仕委員会による各クラブへの参加呼びかけ、財団委員会によるDDFの申し込み、公共イメージ委員会によるメディアの活用等、準備を進めています。

現在の当地区参加クラブ数は56クラブ中47クラブ(84%) +RACです。只返信がないクラブが8クラブあり、残念ですが、今からでも結構です。不参加が1クラブです。

実行日9月12日(日)、予備日9月26日(日)となっております。

財団委員会によりDDF30万円を頂いており、のぼり作成費用に当てております。フォトコンテストも行われてますので、皆で参加しましょう。

詳細はガバナー事務所まで。

何をするのか？

海岸・河川に集合

↓

のぼりを立て、1時間程度、プラゴミ・ビニール等を回収

↓

写真撮影

↓

解散

地区→日本全国→世界中へ

このプロジェクトの発案は日本からであり、RI会長も絶賛されています。
日本から世界中に呼び掛け、多くの参加国が増え続けています。これだけの大規模な奉仕の同日実施プロジェクトは初の試みであり、ロータリーの団結を社会へ知らせるビッグチャンスです。

皆さん頑張りましょう！！

地区委員長挨拶



RLI推進委員会

吉岡 義治

(佐賀南RC)



本年度、RLI推進委員会委員長を仰せつかりました。

RLI日本支部・第2700地区・第2720地区の協力を得て3年、満を持して本年度より、我が第2740地区でもRLI研修がはじまります。

RLI (ロータリーリーダーシップ研究会) はRIが承認している多地区合同のプログラムで、現在世界の80%近い地区が参加しています。

RLIの目的は DL (ディスカッションリーダー) から与えられたテーマで、参加者同士で議論を交わすことで、ロータリーに関して色々な角度から考える機会を得て、参加者個人・個人が新たな気づきを得る場づくりです。

そのことで、より深くロータリーを学ぶきっかけとし、自主性と指導性を発揮して頂ければ必ず、魅力ある例会を開けることと思います。

我が地区では新しい試みの委員会ですが、皆様方のクラブ運営のお役にたてればと思います。

魅力ある例会をつくるのが 会員増強をはじめ、我々が抱える様々な課題への最大の解決策になると思っております。

この委員会は地区常設委員会のひとつになります。

地区では、RLI研修だけではなく、RLIDL研修も開いてまいります。

貴殿のクラブにぜひともRLI委員会を設置し、DL研修を受講してください。

皆様のご理解とご協力をお願い致します。



クラブ管理運営委員会

野田 初憲

(神埼RC)



2021~2022年度 国際ロータリーのテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」を掲げられています。シェカール・メータ会長は、「奉仕するとき、誰かの人生だけでなく自分の人生も豊かになる」「人々の世話をし奉仕することこそ人生の最高の生き方」と述べ、奉仕プロジェクトへの積極的な参加を会員に呼びかけています。

全てのロータリアンが「もっと行動し、もっと成長する」ための意欲を喚起し、持続可能な良い変化を生むためにクラブ管理運営委員会では行動を行って参りたいと思います。

たくさんの笑顔あるクラブを作るには、我々の大切な活動である例会や親睦をどう運営していく事ができるかを考えていかなければなりません。クラブ内の風通しを良くするためにヒューマンリレーションの構築とコミュニケーションを図り、会員間の絆を深め結束し、楽しみながら活動できるよう常に心を配ります。

ロータリーは今、急変する環境に適応するため、革新性と柔軟性を持ったクラブ運営を求められています。これは、クラブが効果的で円滑な管理運営を行っているかが問われているのだと言えます。創意工夫を凝らした会合の議題とプロジェクトを企画し、充実したロータリーライフが送れるような委員会活動を行います。

また、多様化したニーズへの対応や幅広いスキル・知識を結集するため、女性や若年層を含めた会員増強の取組みについても、引き続き重要課題として他委員会と連携し、取り組んで参ります。

【計画】

- 会員の関心に応じて多種多様な内容や形式を取り入れた効果的なセミナーを実施し、柔軟性を持ったクラブ運営を図る
- 他委員会と連携を取りながらクラブをサポートし、クラブの活性化を図る
- 全クラブに戦略計画委員会の設置を図る
- 会員同士の絆を深めるプランニング
- 各クラブが抱える管理運営に関する疑問の解消や情報提供等のサポート
- 世界中のクラブの状況や奉仕活動のヒントを得られ、交流を深めることが出来る「My Rotary」への登録向上を図る
- これまで行ってきた過去の活動を検証し、今後の活動の参考とする
- 各クラブが成果を上げ活力を保ち続けるために、引き続き会員増強の取組みを図る

地区委員長挨拶



会員増強委員会

藤永 勝之

(鹿島RC)



今年度の会員増強委員長に任命されました、藤永勝之と申します。昨年度から2期目の任務になります。引き続き会員の皆様よろしくお願いたします。

軽視出来ない会員の減少

コロナの影響もあり、会社経営が困難になり退会されるクラブも多いと思います。またロータリーが地域社会に受け入れられていた時代から、陰りがみえ、存在感が感じられない現実と慢性的な活動のやり方を、この際見直し、出直すよい機会と思います。

しかし、他の国では発展を続けている国や地域もあります。惰性的なクラブ運営を見直し改善しましょう

地域における貢献が存在意義

原因は何か。退会の理由など見ると、転勤、退職、経済的理由など仕方なく退会する人やロータリーへの魅力を失ったと思われる人がおられることも現実です。

その根底には、「ロータリー活動は、事業のプラスアルファのサービス」との存在意識があるのではと思っています。

ロータリーの本来の理想に立ち戻り、良い人間社会、幸せな人づくりのために、地域の実情と自クラブの体質、体力に見合った活動目標に選定し、自主的、自発的な活動にすれば、会員がロータリーに魅力を感じ、自信を深め、地域の人たちに評価されると思います。

会員減少という現実を時代の流れとせず、進んでロータリークラブを立て直し、さらなる発展につなぐ事が、自分自身を見直す好機と捉えていきましょう



公共イメージ委員会

原田 徹

(雲仙RC)



皆様こんにちは。RI第2740地区 2021-2022年度 公共イメージ委員長の原田と申します。所属は雲仙ロータリークラブで、ロータリー歴は9年目となります。よろしくお願いたします。

昨年度より引き続き委員長の重責を拝命することとなりました。

コロナ禍の影響で皆様のクラブにおける例会や奉仕活動等も計画通りに進捗できなかったことが多いのではないかと思います。新年度の準備等も不十分なままのスタートではありますが、佐賀・長崎地域でのロータリーの公共イメージの向上に努め、会員増強や各クラブの活性化に貢献できればと思います。

昨年度から公共イメージの向上にご協力いただきやすい環境整備の一環として、地区のホームページのリニューアルに着手いたしました。今年度は更に機能を拡充させ、各クラブから奉仕活動事例や委員会活動等を登録していただくことで、各種SNS等と連携させ、情報発信基盤を強化し、2740地区の公共イメージ向上の底上げができるよう活動していきたいと考えております。

公共イメージ部門は、それ単体では機能しにくい特性がございます。他の各部門と連携し、皆様の活動を世に知らしめることが役割と考えておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

地区委員長挨拶



職業奉仕委員会

山本 正樹

(佐賀南RC)



昨年度に引き続き2021-2022年度地区職業奉仕委員長を仰せつかりました佐賀南ロータリークラブの山本正樹です。改めまして皆様のご協力何卒よろしくお願いたします。

昨年度はご存知の通り、コロナ禍での感染リスクを考慮し幾度となく企画したセミナーも延期続きとなり、2021年6月にやっと会員増強委員会と合同で開催することができました。年初の計画通りに開催できませんでした、その中での新しい発見もありました。

まず従来の受動型セミナーから脱却しファシリテーションを取り入れた参加型のセミナーの実践。また集合型研修が開催できない中で、Zoomを活用したWeb参加のセミナー。この2点に関しては今後も是非取り入れていきたいと考えております。

分かりにくい職業奉仕と言われているからこそ、ファシリテーションによって高いリーダーシップ教育を行い、ロータリークラブを強固なものとする為にも、ファシリテーション委員会と連携しロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育てるべく、一丸となって邁進していきたいと考えております。

ロータリークラブの第一の真価は奉仕する人を育成し社会に寄贈する事だと思っております。その為にも委員長として1年間邁進していく所存でございます。

基本方針

1. RLIを通じてロータリーの職業奉仕理念を含めた基本理念の浸透。
2. セミナーに参加された方が各クラブのリーダーとなり職業奉仕についてクラブ内でファシリテーションを行う。
3. ロータリーの基本理念の承継、会員増強、魅力溢れるクラブ作りという各クラブのサイクルの構築。

上記3点を目標に掲げ、2740地区から多くの優秀な指導者の花が咲くべく下へ下へと根を伸ばす礎となればと考えております。1年間どうぞよろしくお願いたします。

行事予定：2021年9月11日(土) 職業奉仕セミナー 場所：ホテルマリターレ創世佐賀



社会奉仕委員会

佐藤 誠

(諫早RC)



昨年度に続き本年度も社会奉仕委員長を務めさせて頂く事になりました。今年度は3名の委員が交代して6名の委員会で運営をしております。前年度の活動計画が達成出来ませんでしたので、前年度の活動方針を基礎にガバナーのお考えが達成出来ます様に6名の委員が一致団結して活動致します。

2021～2022年度地区社会奉仕テーマ

「社会奉仕活動を通してロータリーの公共イメージと認知度を向上させよう」

活動方針1： ロータリー奉仕デーへの参加

新たに活動をするのではなく、開催日を統一するのではなく、クラブの大小を問わず、全てのクラブが参加するには、永年にわたり育ててきました奉仕活動をロータリーデーと位置付けて、看板、のぼり等で世間にアピールを行うことで、ロータリーの公共イメージを向上させようと考えます。

活動方針2： 地区財団活動資金(DDF)を活用した社会奉仕事業の拡大

これまで、ロータリー財団委員会の指導の基に補助金を有効に利用し事業を活動してきました。その活動内容を皆さんにご紹介をすることで、理解を深め参考にして頂きたい。

また、社会奉仕事業実績の種類別内容紹介をしますので自クラブでの参考にしてください。

1. 人間尊重事業
2. 地域発展事業
3. 環境保全事業
4. 協同奉仕事業

活動方針3： 「ひとり親家庭支援」について講演会開催予定

ひとり親家庭生活困窮世帯に対して、食材提供と文房具・雑貨支援をされていますが食材も文房具等もすべて、物品寄付等で対応されている団体があります。ひとり親家庭状況の中、生活保護を受けずダブルワーク等しながら子供を育てている方たちを支援されている団体のご指導を頂き、ロータリークラブの公共イメージを向上させ、市民の皆様へ理解や関心を促し、今だからこそロータリークラブをしらしめることも必要ではないでしょうか。

以上の内容をご理解頂き、各クラブが有意義な活動を実施されます事をご祈念申し上げ、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

地区委員長挨拶



地区ローターアクト委員会

高松 茂信

(鹿島RC)



3年目が来ました。地区委員長に成って、石の上にも三年といいますが

私が地区委員に成り立ての頃と今ではアクターの中身も随分変わった様な気がします。

私が歳をとったのでしょうか？

5年前はもっとアクターが元気だった気がします。

今はどうかと言えば正に3・4・3（さしみ）の法則、一所懸命やる人はやるけど、眺めている人は眺めているだけという格差が広がってきている様な気がします。

中でも気になるのが「アクトに入会したのは良いけど後どうしたら良いか分からない」という会員が多い事にびっくりさせられます。

やはりアクトは某青少年団体の様な縦の繋がりが無いからでしょうか？

私は両団体と接触がある為に言えるのですが、ロータリーとローターアクトは活動や理念にそこまでの違いは無い様に思えます。

“ロータリーだからどうだ”とか“ローターアクトだからどうだ”とかは一旦考えずにもっと一緒に活動していても良いかと考えます。

ローターアクトの存在を損得で考えるのではなく、お互いウィンウィンの関係でやっていけばアクトの会員も自ら増えてゆくのではないのでしょうか？

もうぼちぼちコロナ騒ぎにも飽きた今日この頃です。

今年は3年分溜った鬱憤を晴らし、バトンを渡そうかと考えております。

本年度もロータリアンの皆様とアクターの皆様にとって良い一年でありますように。



インターアクト委員会

長戸 和光

(牛津RC)



今年度、昨年度に引き続き第2740地区インターアクト委員会の委員長を拝命することになりました。牛津ロータリークラブの長戸和光と申します。どうかご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、当地区には、現在のところ21のロータリークラブが提唱する22のインターアクトクラブがあり、ロータリーの五大奉仕部門の1つである青少年奉仕の活動の1つを担っております。

一昨年度までは、地区のインターアクト活動として年次大会を年に1度開催し、さらに秋季と冬季の2度の指導者研修を開催して参りました。その中では、インターアクト同士の交流にとどまらず、ローターアクト等他の青少年奉仕活動への理解や交流を深めるための活動を行って参りました。

しかし、コロナウイルスの感染流行のため、昨年度はインターアクトが集合して行われる年次大会や指導者研修については実施が困難と判断し、開催を見送らざるを得ない結果となりました。本年度についても、7月に予定されていた年次大会については、やむを得ず中止ということになっております。また、現時点で、コロナウイルス感染流行の終息が見通せる状況ではなく、本年度の活動についても予定が立てられない状況となっております。

しかしながら、現状で実施可能な活動を検討すべきと思われますし、コロナウイルス感染流行が終息した後の活動に繋げるための準備も必要になります。本年度は、現状に戸惑うのではなく、今後を見越した活動を検討して参りたいと思っております。

また、インターアクトクラブ活動認定制度については、一定程度の認定申請はありますが、まだ周知されているとは言い難い状況です。申請数の増加を図るため、その趣旨の浸透を図るための活動を行って参りたいと存じます。

最後に、悩み多き1年になるかと思いますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

地区委員長挨拶



国際青少年交換委員会

樋口 征司

(諫早南RC)



2021-2022年度

国際ロータリー第2740地区青少年交換委員会の委員長を務めさせていただきます諫早南ロータリークラブの樋口征司と申します。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年度に続き今年度も新型コロナウイルス蔓延拡大により青少年交換プログラムが中止となり、当初7名の派遣予定の学生がいましたが、昨年度は3名の学生が交換プログラムを辞退することとなりました。(一年先延ばすことにより大学受験に差し支えるとの理由で)

しかし残る4名はこの交換プログラムでの留学を希望したいとのことなので今年度も引き続きオリエンテーションを開催していきます。

そして次年度に向けて2, 3名の候補生を募集したいと思っています。

5月に全国の青少年交換委員会の委員長会議が(ZOOMにて)開催されました。

今回の新型コロナウイルスによる留学が中止になった学生に限りオーバーエージでの交換留学ができないものか?との議題で会議が行われ、アンケートを取ったところオーバーエージを認めるが約52%、検討中が約30%(できれば留学させてあげたいとの考え)認めないが約18%といった結果でした。半数以上がオーバーエージでの交換留学を認めて一人でも多くの学生を留学させてあげたいとの考えでした。

しかしオーバーエージでの交換留学は色んな条件が異なってくる可能性があるかもしれないので、各関係者の方々と相談をし、そして各地区との情報交換をしながらこの交換プログラムが実施されることを願って委員会活動を行っていきたくと思っています。

この交換プログラムを実施するにあたり各クラブの会員の皆様方のご協力なくては出来ません、どうか各クラブの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



RYLA委員会

相浦 封哉

(多久RC)



21-22年度委員長を務めさせて頂く事になりました、多久RCの相浦と申します。

RYLAは、ロータリー青少年指導者養成プログラムで、14~30歳までの青少年を対象とする集中研修プログラムです。

RYLAの目的は「地域社会、国際社会に奉仕する青少年リーダーを育成する事」と定義してよろしいかと思います。

第2740地区では年1回、ホストクラブが移行する形がとられ、18-19年度島原南RCの第40回大会まで連綿と継続して来ましたが、その後はコロナ禍の為中止となっております、19-20年度千葉ガバナーの下「新RYLA検討委員会」が立ち上げられました。これは、ロータリーにおいて「持続性のある変化」が求められている中、今までの手法のメリット、デメリットを考慮し、より良いRYLAの在り方を研究しようとする試みです。

これに基づき、20-21年度は今までの「RYLA委員会」と「新RYLA検討委員会」は十分な検討・協議の上、基本的な今後の指針を作り上げる予定でしたが、コロナ禍の為、十分な協議は出来ておりません。

21-22年度は上記2つの委員会が統合となり、1つの委員会となります。

新メンバーとなり、十分な検討・協議の上、ガバナーのご指導の下、「新RYLA」に向け、新たな指針を作り上げていきたくと思っています。

皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

地区委員長挨拶



ロータリー財団委員会

岡村 康司

(長崎南RC)



今年度2021-2022年のRIのシェカール・メール (Shekher-Mehta) 会長はRI理事とロータリー財団専門家グループを経てロータリー財団インド理事長も務められた経歴をお持ちであり、歴代のRI会長のなかでもロータリー財団に対する造詣が深い方であると思います。そのRI会長の理念と塚崎寛第2740地区ガバナーの運営方針に沿い今年度もロータリー財団グループ (4つの委員会と3つの小委員会) を率いて運営していきたいと思っています。

当委員会は補助金の管理だけではなくアメリカ・エバンストンにある財団本部との情報交換、ポリオの撲滅活動やグローバル奨学生の選任、留学後のサポートなど活動は多岐にわたっており1年ごとの総替えができない委員会でもあります。そういう中で、少数づつですが新しいメンバーに委員として就任してもらい財団活動を知っていただくことも今後のために大事なことでと考えています。

全世界的なコロナの影響で財団も多額の資金をコロナ対策に投入しており、補助金の保有高も減少している状況であります。私自身も今年度が委員長として3年目ということでコロナ禍で開催できなかった2020年度のみまでできる限り頑張っていきたいと考えます。今年度もどうぞよろしくお願い致します。



ロータリー財団奨学・学友小委員会

森本 大輔

(大村RC)



財団奨学・学友小委員会の委員長としての2年目を終えようとしています。

今年度は、グローバル補助金奨学生として呼吸器が専門の医師、賀来敬仁君、地区補助金奨学生として音楽専攻の高銀彬さん、二人の優秀な奨学生を無事送り出すことができました。コロナ禍において、不自由を余儀なくされているようですが、奇しくもお二人とも同じアメリカのミシガン大学で、時に連絡を取り合いながら元気に頑張ってくれているようです。

また、今年、帰国予定だった2019-20年度のG.G.奨学生の谷口大輔君は、来年からToronto General Hospitalで1年間、肺移植臨床フェローとして臨床経験をさせてもらう機会を得たとのことで、今後のさらなる飛躍を期待させる連絡を先日受けたところです。

一方で、この原稿を書いている6月半ば、次年度、送り出す奨学生の手続きが大詰めを迎えています。

通常であれば、年明けころから書類審査を行い、3月には面接、プレゼンテーション試験による選考。候補者の決定の後、財団本部への申請手続きとともにロータリーの理念を伝えるべく教育が行われるといった段取りで進んでいきますが、今年度は、コロナの影響があっただけでなく、応募の出足が遅く、奨学生の候補者が決定したのは、6月6日。現在、留学先の地区に受け入れてもらうための調整と、財団本部提出の申請書の作成を同時におこなっているといった状態。しかも、現行のグローバル補助金を受けるための提出期限が数日前に突然発表されるという不測の事態。この原稿が掲載される時にどういう状況になっているか全く未知の非常に厳しい状況で作業を進めているところです。良い報告ができることを願っています。

今年度も大変優秀な人材をセレクトしていただいています。まずは、残された時間、無事、本部への申請が通るよう全力を尽くしていきたいと思っています。

一年間ありがとうございました。また、引き続き、ご理解とご協力、ご指導の程よろしくお申し上げます。

地区委員長挨拶



資金推進委員会

西村 勇二

(長崎RC)



第2740地区資金推進委員会委員長を仰せつかりました、長崎ロータリークラブの西村勇二と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当委員会はロータリー活動を資金面から支えている「ロータリー財団」に対する寄付を推進する委員会であります。地区が設定した寄付目標(一人あたり年間150\$、ポリオ根絶支援など)にしたがって、その金額を達成できるように支援する活動を行ってまいります。

皆様から頂いたご寄付の90%以上が奉仕プロジェクトに直接生かされます。

ロータリークラブは発展途上国にきれいな水をもたらし、平和活動に携わる人材を育成するなど持続可能な影響をもたらしています。またポリオ根絶活動においても予防接種活動を通じて発症数を99.9%減少させました。わずかな寄付で一人の子供の命を救うことができます。皆様からのご寄付はこうした活動に大切に活用されています。私たちは透明性を重視し、責任ある資金管理を行っていますので安心してご寄付いただけます。どうか皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



ポリオプラス委員会

瀬戸 信二

(長崎南RC)



今年度より、ポリオプラス委員長を拝命致しました。地区委員は初めての経験で、至らぬ点が多いかと存じますが、ご指導・ご鞭撻宜しくお願い致します。ポリオは、ポリオウィルスの感染により四肢急性麻痺を来す疾患で、感染者100～200例に1例の頻度で発症します。日本でも1961年の年間5000例超をピークに流行が見られましたが、ワクチン接種により1970年代に根絶されました。西太平洋地域では、1991年に中国やベトナムで大流行が起きましたが、ワクチン接種強化により、1997年のカンボジアを最後に、2000年に根絶が宣言され、アメリカ地域、ヨーロッパ地域でも、2000年に前後して、根絶が達成されています。2000～2010年頃に感染が広がったアフリカ地域でも、対策強化により、最後に残ったナイジェリアでの根絶が達成されました。現在、残されているのは、アフガニスタンとパキスタンのみです。

このようにポリオウィルス野生株については、世界根絶宣言も時間の問題と思われています。ところが、WHOの報告によると、最近新たな問題が浮上しつつあります。それは、生ワクチンに使われる弱毒化したポリオウィルスが変異を起こし、このワクチン株由来ポリオウィルス(VDPV)が野生株と同様の毒性を持つようになり、野生株が根絶された地域でも広まってきているのです。対策の強化により流行拡大は抑えられていますが、「生ワクチンを使っており接種率が下がってきた発展途上国で、人口密度が高く非常に不衛生な場所、例えば都市のスラム街やへき地の村落」でVDPVが広がる懸念が浮上しています。野生株の根絶を完了させることとVDPVの伝播を止めることが現在の課題となってきています。ワクチン接種やサーベイランスのみでなく、貧困への対策など、更なるあと一步の努力が求められています。ロータリアンの皆様のご理解とご協力・ご支援宜しく申し上げます。

地区委員長挨拶



資金管理委員会

西川 義文

(大村RC)



今年度、資金管理委員長を仰せつかりました西川です。

当委員会の責務(仕事内容)は、地区補助金、財団補助金を利用するロータリアンに向けて、財団の事業の周知と利用の推進を図っていきます。

委員会の事業内容は以下の項目に要約されます。

1. 財務管理計画の作成と「地区の覚書(MOU)」の締結を支援する。
2. 補助金セミナーを企画実施して、クラブの参加資格認定事業を支援する。
3. クラブと地区が提唱するすべての補助金事業において適切な管理を指導する。
4. 補助金に関与するすべての人の利害が対立しないような運営を心がける。

補助金の利用に関しては、RI及び財団の公正で明瞭な会計ルールの下に厳格に行いますが、それが利用の促進を妨げないよう配慮していきたいと思えます。

宜しくご協力のほどお願い致します。



米山記念奨学委員会

松田 洋一

(諫早北RC)



昨年度に引き続き、第2740地区米山記念奨学委員会、委員長をさせて頂きます、諫早北ロータリークラブの松田です。

昨年度は、コロナ禍の中、厳しい経済状況にもかかわらず、米山記念事業に対して御浄財を賜りまして、誠に有り難う御座いました。ご承知の通り奨学生の採用枠は、寄付金の総額金で決まります。当地区の奨学生は、前年度が16名に対して今年度は1名減って15名になっております。全国的にも883名から855名と減少してきています。

地区委員会としましては、広報寄付増進担当リーダーを本村一委員(佐賀西RC)、学友会・奨学生担当リーダーを本多善彦委員(雲仙RC)へ、米山奨学事業のベテランの2人をお願いをし、地区委員一丸となって活動をしていく所存でございます。

第2740地区56クラブのロータリアンの皆様におかれましても、国際親善と世界平和に寄付する米山記念事業に対して、ご理解とご協力の程宜しくお願い致します。

塚崎ガバナーより、個人平均寄付金額¥16,000/人を目指すことを呼び掛けて頂いておりますので、目標達成に向けて米山月間の10月前後に実施する奨学生の『出前卓話』の際には、地区委員が同行し寄付のお願いに参りますので、今年度も宜しくお願い致します。

委員会報告

2021～22年度 次期会長米山奨学委員会セミナー

米山奨学委員会 長崎北東RC 久保田 和典

国際ロータリー第 2740 地区の 2021～22 年度 次期会長米山奨学委員会セミナーが 6 月 19 日（土）諫早文化会館において、地区委員、駒井英基米山奨学会理事、宮崎清彰米山奨学会評議員、千葉憲哉次年度地区研修リーダー、塚崎寛ガバナーエレクト、各クラブ会長エレクト・米山記念奨学委員長をお迎えし厳重な消毒、体温、換気の中で、午後 2 時から午後 4 時半まで、総参加者 129 名で、無事にすべての行事を終えることができました。

セミナーでは・米山とは・米山の歴史・地区の現況等を塚崎ガバナーエレクト、駒井奨学理事、松田奨学委員長皆様より説明を頂き、来場の皆様に米山に対しての理解を深く求める講演を頂き、その後各留学生より自己紹介があり、将来の夢を述べた後、最後に本多委員より奨学生に対する熱い思いを来場の皆様に訴えて頂きました。締めくくりとして、総評を千葉次年度地区研修リーダーに総評を頂きました。今後とも米山奨学生へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



11:30 集合	地区委員・奨学生	
13:30 受付開始		
14:00 開会	地区委員	元村 一
点鐘	ガバナーエレクト	塚崎 寛
国家・ロータリーソング		
出席者紹介	地区委員	大川 正二郎
ガバナーエレクト挨拶	ガバナーエレクト	塚崎 寛
米山奨学記念事業について	公益財団法人米山記念奨学会理事	駒井英基
ロータリー米山奨学会地区状況について	次年度地区米山記念奨学委員長	松田 洋一
広がれ人づくりの輪 (DVD)	地区委員	本多 善彦
学友会・米山奨学生の自己紹介	地区委員	重信 哲
学友会説明	学友会会長エレクト	アメリカ・リズキー
	地区委員	本多 善彦
総評	パストガバナー	千葉 憲哉
16:30 閉会の辞	次年度地区副幹事	安田 伸幸
点鐘	ガバナーエレクト	塚崎 寛





会員増強・新クラブ結成推進月間

コロナウイルスの感染が、ウイルスの変異が止まらず収束を見せない状況の中、新年度がスタートしました。一昨年12月から1年半が経過しましたが、昨年度のカバナーはこの新常態に対応すべく果敢に新しい地区運営に尽力され、文字通りホルガー・クナーク前RI会長テーマ「ロータリーは機会の扉をひらく」を実践してられました。3大研修やクラブ公式訪問もリアル、オンライン、ハイブリッドなど工夫を凝らして開催されました。地区大会も中止の判断をされた地区もあり、リアルで開催できた地区は限定されました。また、楽しみにしていた台北での国際大会も2年連続でバーチャルでの開催を余儀なくされ、地区内会員が一堂に会し、日ごろの活動を振り返り、アイデアを交換し、友情を確かめ合い、親睦を深めることも思うようにできませんでした。新しいアイデアのもと様々な奉仕活動やクラブ・地区運営などが実践され、今年度につながるものと期待しています。クラブにおいても同様でしたが、いち早くこの新常態に合わせたクラブ運営に切り替え、従前より活発に活動をされているクラブも数多くあります。オンライン例会ならではの利点を活かし、卓話講師の枠を上げたり、ネットワークを活かしてクラブ、地区を超えた奉仕活動を実践されているクラブも数多く見られます。2680地区大会はバーチャルでしたが、サプライズ演出で花火1000発を打ち上げられ、閉塞感の強い地域社会に一服の清涼感をもたらし、NHK関西にて取り上げられ、公共イメージの向上に大きな役割を果たしました。また、2750地区ではポリオ撲滅JAZZチャリティコンサートを開催し、大きな寄付を集めることに成功し、この取り組みもNHK関東で取り上げられました。さらに2510地区大会はバーチャルでしたが、工夫を凝らし、YouTubeにて地区大会の裏番組ともいえるべき、解説とゲストによる対談などを放映して地区内会員に対してロータリーの知識や楽しみ方などを伝えることが出来ました。困難な状況のなか、このように積極的にアイデアを出し合い前に進んでいく姿勢こそ、今最も必要とされていると思います。それには、地区においてはガバナー、クラブにおいては会長の強い思いとリーダーシップが不可欠です。地区もクラブもこの新常態に合わせ、ビジョンを持ち行動することが求められています。夢のある者、目標があり、目標のある者、行動があるという言葉がありますが、ロータリーでも同じことが言えると考えます。クラブにおいては、会長のリーダーシップのもとクラブ会員全員参加で行動計画を作成し、実践・行動していただきたいと考えます。改めて言うまでもなく、8月は会員増強・新クラブ結成推進月間です。活発な活動を通じて良い仲間を迎え入れましょう！

第2地域 ロータリーコーディネーター 水野 功 (東京飛火野RC)

7つ目の重点分野「環境」

みなさんは、ロータリーの6つの重点分野に7つ目として「環境」が加えられたことをご存知でしょうか。今年度からこの分野のプロジェクトもロータリー財団のグローバル補助金申請の対象となっています。

6月号の『ロータリーの友』によると、このことが発表されたのは2020年6月でしたが、マーク・マローニー元RI会長は当時を振り返って、「ロータリアンやローターアクター、一般の人々を対象とした調査によると、「環境」が関心事のトップ5に入っていて、特にロータリーの候補者といえる一般の人々には、「環境」は第一に取り組むべきこととなっていました。」と述べていらっしゃいます。

「ロータリーのビジョン声明」を達成するための「行動計画」には四つの優先事項がありますが、そのうちの一つは「参加者の積極的なかわりを促す」となっています。会員の関心が高い「環境」が重点分野に入るとは、会員の参加意欲も沸いてくるわけで、「行動計画」の目指すところとも一致することになります。クラブが「環境」にかかわる奉仕プロジェクトを実施することで参加者が増えれば、クラブの活性化につながります。みなさんのクラブでも、「環境」にかかわる新しい奉仕プロジェクトをスタートさせることを視野に入れてみてはいかがでしょうか。日本がプロジェクト実施国となっていけるグローバル補助金プロジェクト実施の可能性も、他の重点分野に比べて高いように思います。

重点分野に「環境」が加わることは、ロータリーの公共イメージ向上の上でも、「世界を変える行動人キャンペーン」の展開に大きなプラスとなります。ロータリーは何をしているのですか?という問いに、ポリオ根絶や紛争の解決、教育支援に加えて、「環境」にも取り組んでいることがわかれば、ロータリーをより身近に感じ、共感を持つ人が増えるだろうと思われれます。

ロータリアンは「他者を思いやる心」を持って行動しています。その「他者」とは、たまたま隣に居合わせた人、仕事で関わる人々、自分の身近な地域社会の人々、この地球上に同じ時代に生きるすべての人々だと思っています。しかし、地球の環境を考える時、そこには私たちの子供、孫の世代、さらには何世紀も先の未来の人々も含まれるのだと気づかされます。わたしたちが目指す持続可能なよい変化は、地球の未来に続く道となります。

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 服部 陽子 (東京広尾RC)

Rotary  2021-2022年度

地区大会

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

11/27 (土) 会場 出島メッセ長崎

ごあいさつ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



ガバナー 塚崎 寛



実行委員長 植松 俊徳

国際ロータリー第2740地区2021～2022年度地区大会を塚崎寛ガバナーのもと開催することになりました。長崎市としては5年ぶりです。

会場は、来年の新幹線開業を控え、11月1日にオープンする出島メッセ長崎（長崎駅直結の本格的コンベンション施設）。新しく生まれ変わった長崎駅周辺を多くのロータリアンの皆さまにご覧いただけます。

また、オリンピック会場（新国立競技場）の設計者としても有名な隈研吾氏に講演を頂くことになっております。

コロナ禍での開催で何かと不自由をおかけしますが、ご参加いただきますようお願いしております。

ホストクラブ 長崎中央ロータリークラブ

プログラム

11/27 (土)

会場/出島メッセ長崎

- 13:00～ 本会議（第1部）
- 14:30～ 記念講演 隈研吾氏

隈 研吾

1954年生。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。国内外で多数のプロジェクトが進行中。国立競技場の設計にも関わった。主な著書に『点・線・面』（岩波書店）、『ひとの住処』（新潮新書）、『負ける建築』（岩波書店）、『自然な建築』（岩波新書）、『小さな建築』（岩波新書）、他多数。

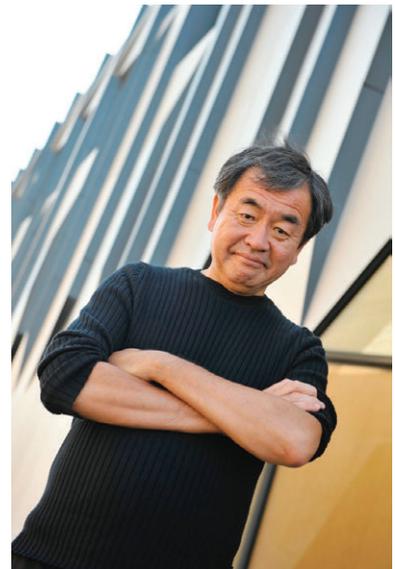


Photo (c) J.C. Carbonne

- 16:15～ 本会議（第2部）

例年行っておりましたRI会長代理歓迎晩餐会、セミナー、懇親会、親睦ゴルフ大会につきましては、時節柄、中止とさせていただきます

子どものころのわが町 長崎



昭和 40 年当時の長崎市公会堂と長崎中学校校舎（現在は立山町に移転済）の写真です。

現在は手前の中学校跡地には長崎市民会館がすでに建っていますが、中央部の公会堂跡地には令和 4 年度完成を目指して長崎市役所が建築中です。

写真集「長崎おもいで散歩 2」（真木雄司氏撮影）より

編集後記

新年度も、スタートはしましたが、新型コロナの影響でなかなか事業計画どおりにはいかないようです。さぞかし各ロータリアンもご苦労されていることとお察しいたします。一日も早い各種ウイルスの終息を願うばかりです。

《表紙イラスト説明》 たぬき絵作家 堤けんじ（長崎市在住）

ふるさとの身近な出来事を楽しく表現するために擬人画を用い長崎県の風物の巡回展、画集製作など活躍されています

第2740地区ガバナー事務所

〒850-0045 長崎市宝町2-26

ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション内

TEL：095-895-5330 FAX：095-825-8587

E-mail：ri2740tsukasaki@joy.ocn.ne.jp

URL：https://rotary2740.jp/（7月1日よりホームページのURLが変更になりました）